

# OMM JAPAN イベントディレクターレポート

OMM JAPAN2015を終えて、「すべては参加者のために」というTHE OMM48年の歴史の中で受け継がれる、もっとも根源的なこのスローガンをいっそう深く考えている。

我々運営は何を参加者達に（コンペティター）提供するために、このイベントを開催しているのか？ 答えは「経験」にほかならないだろう。

タフなコンディション、長時間の行動、オーバーナイトキャンプ、ナビゲーション、様々な要素が複合的に入り混じり2日間をかけて広大な山岳地を駆けまわり、無事に帰還する。

2日目のFINISHに辿り着いたコンペティターひとりひとりがどれだけ多くの「経験」という「財産」を持ってこの場所に帰ってくる事が出来るだろうか？

それがこのOMMというイベント、レースを作る上での何よりも重要なマインドではないかと考えている。そして、このマインドを運営に関わるチーム、スタッフ、ボランティアのひとりひとりが、さらに理解を深めていくことで、このOMMJAPANというイベントは、無尽蔵に成長し続けていけるのだと確信している。

OMMというイベントをこの山岳地形国である日本で開催していくこと、それは我々運営チームにとってもリスクある大きなCHALLENGEである。だがこのOMM JAPANチームの仲間、精鋭達であれば、そのリスクをコントロールし必ず毎年レベルアップし続けていけると確信している。

「すべては参加者のために」

このスローガンを今一度、運営に関わるすべての仲間と共有し、来年のOMM JAPAN2016に臨みたいと思う。

## 評価・課題・反省

### 1. 開催地・安全管理

今年の開催地、群馬県嬭恋村周辺のエリアは、キャンプ地標高地点1300m、最高標高地点2100m、吹きさらしの稜線もあり、昨年の開催地である静岡県東伊豆町に比べて運営のリスクマネジメントの難易度は遥かに高く、我々運営チームとしても大きなチャレンジであった。

さらに当日の天候は14日朝～15日朝まで振り続けた雨と、日中の気温1～4℃、一部山頂付近では積雪5cm強、稜線上のコースでは一部風速15mという場所もあり、想定されていた競技続行可能な許容範囲の中でも、もっとも厳しいコンディションとなった。

また結果としてもOMM JAPANとしては初めてとなる、山中でピバークをしたチームが数チーム、低体温症気味でマーシャルに搬送されたチームも数チームとなった。

いずれも競技チームの適切な対応と、コンペティター（選手）自身による適切な判断と行動により、すべてのチームが15日定刻までに無事に帰還することができたことは、今後の運営における大きな自信とステップになったことは間違いない。また、その中でも多くの課題と反省もあり、これらを来年以降の開催に向けて精査し、より高い精度を持ってリスクをコントロールできる安全なイベント運営を作っていきたい。

## 2. イベントセンター・オーバーナイトキャンプ

昨年の第一回大会で大きな課題点・反省点となった、イベントセンター、キャンプ地のロケーション・インフラを第2回目の今大会では大きな改善点として据えた。

結果的に悪天候によるリタイアチームも多かったが、イベントセンターではそのほとんどを安全かつスムーズに対応できる結果となり、参加者の多くにも満足してもらえたと感じる。

キャンプ地においても昨年よりも自然に近い環境でのオーバーナイトキャンプを参加者に提供出来たと思う。キャンプ地のロケーション選定はこの日本でもっとも難しいポイントではあるが、来年以降も可能な限り、自然に近い環境でのキャンプを参加者に提供したい。

## 3. コース・MAP

OMMを作る上でもっとも重要なセクションであるコースプランニングでは、今年も非常に苦労した。ロケーションのタフさ、ルートチョイスの豊富さ、ナビゲーションの面白さ、そのすべてをUKのレースのようにプランできるエリアというのは、この日本では皆無と言ってもいいだろう。だが、忘れてはならないのは、ここはUKではなく日本であり、その日本で開催されるOMM JAPANであるということ。南北に国土が長く伸び、地方によってグラデーションのように四季折々、様相を変える日本の地形を上手に活かし、年年でバラエティに富み、なおかつタフで、ダイナミック、そしてチャレンジングなイベントを参加者に提供していきたい。

MAPについては昨年の大きな課題・反省点として据えた。UKのMAPのように、植生によって色を分け、コントラストをくっきりとし、等高線やトレイルも見やすくといったように多くの改善課題を今年のMAPに反映させた。結果として参加者から一定の満足と評価を頂けたと思う。

だが、新たな課題・反省も多く見られたので来年に向けてさらなる改善を図りたい。

※コース、MAPのさらに具体的な評価・課題についてはコースプランナー小泉成行のレポートを参照してください。

## 4. マーシャルスタッフ・ボランティア

昨年大会では、OMMのOWNリスク・自己判断という要素が、あまりにもマーシャルスタッフ・ボランティア達に強い印象をあたえてしまった為、フィールドの選手達とのコミュニケーションが殆なかったことが反省点として残った。

今年はその反省を活かし、マーシャルスタッフ・ボランティア達はタフなレース中のコンペティター達にとって、唯一の安心と安堵を与える事が出来る存在だという共有を事前に図ったことで、当日は多くのチームがフィールド上で、彼らに励まされ、元気もらったことと思う。今年のイベントにおけるもっとも大きな改善点のひとつだと感じている。

選手達と同じくタフなコンディションの山中で、朝早くから遅くまで、参加者の安全を守ってくれたマーシャルスタッフの皆さんと、大きな声で選手達に声援を送り続けてくれたSTART・FINISH・計測チーム・受付チームのスタッフ・ボランティアの皆さんに、この場で心から感謝を贈りたい。

# THANK YOU FOR ALL

OMM JAPAN2015をともに作り上げてくれたすべての仲間に感謝を贈ります。

For TEAM OMM JAPAN

事務局 細谷かこ

テクニカルディレクター 田島利佳 (TEAM 阿闍梨)

総務 大木ハカセ (一般社団法人 N.A.P)

渉外 我部乱 (有限会社エクストレモ)

コースプランナー 小泉成行 (公益社団法人日本オリエンテーリング協会)

計測・リザルト 大場隆夫 (公益社団法人日本オリエンテーリング協会)

受付・スタート・フィニッシュ 田島聖子、田畑清士、木村佳司(いずれも公益社団法人日本オリエンテーリング協会)

安全管理マネージャー 村越真 (NPO 法人 M-nop)

安全管理副マネージャー 長岡健一 (国際山岳ガイド)

OMMJAPAN2015にチームとして参加してくれたすべてのスタッフ・ボランティアの皆様

For 嬭恋村

群馬県嬭恋村役場・観光課の皆様

嬭恋村商工会 青年部・婦人部の皆様

無印良品キャンプ場 石川雅人氏・渡瀬 達生氏・スタッフの皆様

パルコール嬭恋スキーリゾートのスタッフ皆様

嬭恋村猟友会の皆様

群馬県猟友会の皆様

長野原警察署 職員の皆様

For TEAM OMM

OMM Events Director Stuart Hamilton

Marketing & PR Manager Alistaire MacGregor

Communications Director Jeff Jensen (NOMADICS)

岡こずえ

千代田高史(NOMADICS)

For ALL Competitors

OMM JAPAN2015に参加してくれたすべてのコンペティター (選手) の皆様

本当にありがとうございました。

OMM JAPAN EventDirector 小峯秀行